

全 仏

~~~~~

No. 375

1992. 1



第11回 同和研修会  
(関連記事 14面)



財団  
法人

全日本仏教会

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

# 新しい年を迎えて

## 第35回 全日本九州大会 仏教徒会議

## 第18回 世界台湾大会 仏教徒会議

新しい年を迎えて、仏教界の多くのご宗派、都道府県仏教会で、様々な催しが準備されている。

本年は全日本仏教会においても、いくつか大きな行事が予定されている。まず今月三十

日には、東京の赤坂プリンスホテルで、理事会・評議員会が開催され、新しい会長、副会長、理事長、常務理事、理事といった役員が選出される。四月一日からは、新しい事務総局がスタートする。

九月十、十一の両日、福岡県で第三十五回全日本仏教徒会議九州大会が開催される。九州で全仏大会が開かれるのは、実に三十年ぶりである。十日はホテル日航福岡（福岡市）でレセプションが、また十一日には九州厚生年金会館（北九州市）で、大会・式典が開催される予定である。現在、福岡県仏教連合会では、着々と準備が進められているが、それと合わせて、この大会を機縁に、九州の他の県にも県仏教会を創設するよう、働きかけが行われている。

十月下旬には、台湾（中華民国）高雄市郊外の仏光山で、第十八回世界仏教徒会議（WFB大会）台湾大会が開催される予定である。極東地域では、一昨年の韓国大会に続くものだが、もちろん台湾での開催は初めて。現在、準備が進められているが、詳細がきまり次第、日本からも大会参加者を募り、代表団が結成されることになる。

本年はまた、ルンビニー園の復興事業も、いよいよ、具体的な作業着工ができるのではないかと、内外の期待が寄せられている。

# 謹賀新年

財団法人

## 全日本仏教会

会 長 春見文勝  
副 会 長 岩間日勇

理 事 長 壬生祐俊  
白川良純

常務理事

伊東盛熙 吉井道樹  
藤音晃祐 有馬清雄  
細川信元 高藤法雄  
成田有恒 野口善雄

# 都道府県仏教会代表者会議

去る十一月二十五日午後二時から、平成三年度都道府県仏教会代表者会議が、明照会館会議室で開催された。

最初に、石上事務総長の導師で三帰依文を唱和、事務総長挨拶につづいて、新潟県仏教会会長の中村啓識師を座長に選出、議事に入った。

①第三十五回全日本仏教会議九州大会について

野生司社会部長から、一九九二年九月十、十一の両日にわたって、福岡県において第三十五回全日本仏教会議九州大会が開催される予定である、との報告が行われ、つづいて福岡県仏教連合会の黒田英之会長が開催内容を詳細に説明した。

②平成四年度都道府県仏教会負担金について

岡山財務部長が、平成四年度予算編成の基本方針と、各都道府県仏教会の負担金について、詳細な説明をした。

③ルンビニー園復興事業の推進について

久米原国際文化部長が、本会が進めるルンビニー園マヤ堂修復実施計画について詳細な説明を行い、勧募活動へのさらなる協力を要

請した。

出席者から、様々な意見が出された。

④参与推薦について

川島総務部長が、本会の参与の推薦について、現況報告と協力の要請を行った。

⑤同和推進について

斎藤同和推進部長が、活動報告と協力の要請を行った。

⑥税務調査の現況について

岡山財務部長が、本会税務委員会が加盟各都道府県仏教会を対象に行った「法人運営に関する諸問題のアンケート」の中間集計についての報告と、宗教法人と地価税について詳細な説明を行った。

出席者から活発な質問、意見が出された。

⑦政治家からの寄付について

川島総務部長が、平成二年二月一日から施行された公職選挙法の改正について、詳細な説明を行った。

⑧『全仏』誌発送について

野生司社会部長から、本会の機関誌『全仏』の発送について説明があった。  
会議終了後、東京プリンスホテルに会場をうつし、懇親会が開かれた。

伊藤通明  
小倉宗徳  
石川良泰  
岩崎宗秀  
新居祐信  
多紀穎  
鈴木常俊

## 理事

大竹明彦  
森田禅朗  
長谷川靈信  
小滝了信  
柳下隆侃  
猪俣顕忠  
増田貞圓  
江川寛康  
龍田俊三  
山田勝美  
江川辰三  
高見寛康  
安藤正晃  
五十嵐意承  
江連俊則  
山田勝美  
龍田俊三  
江川辰三  
高見寛康

## 監事

壽山良知  
本間孝康  
師田賢説

## 事務総局

事務総長  
石上智康  
職員一同

## 日中合作映画

曼

茶

羅

―若き日の弘法大師・空海―

東宝東和提供

若き日の弘法大師空海を描いた、日中合作映画『曼茶羅』が今話題を集めている。日中国交正常化二十周年を記念して制作されたこの作品は、若き日の空海が見た中国を描くため、数々の日中合作映画の中でも初めて中国人監督、カメラマンが起用された。そこで、映画芸術に深い造詣をお持ちの、上田則夫師（真言宗豊山派・不動院副住職）に論評いただいた。

若き日の弘法大師空海が、仏法の真理を求めて山林修行を行い、さらに唐に渡り、青龍寺の恵果阿闍梨より、密教を伝授されるまでの求道の旅を描いた、上映時間一時間五〇分の日中合作映画である。

監督は中国人の滕文驥。かつてモントリオール映画祭で監督賞を受賞したことがあるらしいが、日本ではほとんどなじみのない監督である。撮影も中国人が担当。その他、脚本、美術、音楽等のメインスタッフは日本側が担当している。

とても、素朴で真面目な映画だが、映画の出来としては、けっして感心できるものではない。風景描写が冗長で、場面展開もモタモタしているため眠気を誘う。ストーリーは啞

然とするほど都合主義。空海をとりまく登場人物達も、おしなべて存在感に乏しく、性格付けも興行がないため、ドラマはいっこうに盛り上がらない。

しかし、映画の出来不出来は別として、この『曼茶羅』という映画、けっして安直な作品ではない。十年ほど前に『空海』という東映で作られた、映画があつたが、そちらの方が面白く見せるという技術、娯楽性においては格段に優れていることは確かである。しかし宗教を扱った映画としては、私はこの『曼茶羅』という映画の方を高く評価したい。誠に不器用な映画ではあるが、内容的には、なかなか優れたところ、見るべきところがある。

## 中国人監督が描く空海像

まず音楽（音楽監督・立川直樹／作曲・喜多島修）が大変素晴らしい。とてもレベルの高い仕事をしている。そしてもうひとつは空海（永嶋敏行が見事に好演）がとても魅力的に描かれているということである。

空海という人物は、国家権力と深く結びつきながらも、民衆の厚い信望を受けるといって、相反する性格を両面兼ね揃えており、なにか権謀術数にたけた政治家のようなイメージで捉えられる面がある。しかし、この映画では、国家の役人とも、反対制派の人間ともごく自然に同時につきあえる人物として描かれている。それが可能なのは、人を分け隔てしない度量の大きさであり、おおらかさであり、誰からも愛される親しみやすさである。この日本人のスケールを超えたキャラクターは、中国人の監督ゆえに描くことができた空海像であるような気がする。例えばこんなシーンがある。

空海が山林修行をしている時に、山中で、遣唐大使藤原三位清河の娘（桜田淳子）とその付き人が舞踊をしているところに行くわす（何故、山の中でこんなことをしているのかわからない）、髭も髪ものばしほうだいで汚い恰好をした空海は、臆することなくそばへ行き、手を叩きながら「ほうらく、ほうらく」とほめ、「いやあよいものをみせていた

「だきました。今度は私の舞をみてください」という。そのあまりにあっけらかんとした、おらかな態度に、女性達の警戒をとりてしまふ。

この場面での空海の行動に、私はとても違和感を覚えた。不自然なのである。演出が稚拙なのかとも思ったが、しかしよく考えるとそれは、この空海の行動が、日本人の感覚とは異質なものであったからなのである。もちろん脚本（原源一）の段階で、この空海のキャラクターは設定されていたのだろうが、しかし日本人が演出をしていたら、たぶんニュアンスは違っていたと思う。中国人の演出ならではの独特の雰囲気（大陸的でもいうのだろうか）が、そのプラスアルファが、日本人では描ききれない空海像を作り上げていると考へたい。そしてその空海像は、存外実物の空海像に近いのではないだろうか。私はそんな気がする。

### わかりやすく描かれた密教への展開

空海が入唐するまでの七年間、全く史料に残っておらず、空白の七年間といわれている。空海はその間に、仏教から密教へと思想を展開させているのだが、何故密教へ傾倒していったかという問題にたいして、この映画は独自の解釈を行っている。そしてその解釈は実に明快でわかりやすい。

空海は「今のままでの仏教では衆生は救えない」と、さらなる真理を求めて諸国の山を歩き、そして四国の室戸岬で、虚空蔵求聞持法を修する。空海二十四歳の著作といわれる『三教指帰』（注・戯曲形式で、仏教が道教、儒教より優れていることを説きあかす）の序文に、この法を修したことが記されているが、そこでは、「明星が来影した」と神秘体験が記されている。空海はこれを機に仏道に進む決心をするのだが、この映画ではそれを大胆に解釈し、次のように映像化してみせた。

岩の上で呪文をとる空海のバックに大きな月が現れる。その月は次第に月食のように黒いものでおおわれていく。そのシーンと連動してイメージ映像が展開する。空海が以前浜で出会い心を動かされた半裸の女性が登場する。キラキラ光る夕陽を背景に半裸の女性と空海は向かい合い手を取り合う（なんと想像力に乏しい描写であろう）。続いて浜を葬式の行列が通り過ぎる。その女性の死である。暗い粗末な墓。そして女性の遺体が、その美しい顔が腐り、朽ち果てる様。これは、前述の『三教指帰』の中で、無常観を説くために描写される。美女が死んで腐っていく様ももとなっていて考えられるが、この映画ではここで終わらない。さらに、今度は美しく可憐な花が写り、続いて花畑を先の女性

が、生き生きとした表情で子供達の手をひいて走ってくるスローモーションで写る。その時、空海のバックの月は月食で覆われ、大音響とともに、空海の目前に大日如来の姿が出現する。無常観をこえ、さらに生が肯定された時、ついに大日如来が出現したのである。

ずいぶん大胆な解釈である。しかし仏教から密教への転換がとてわかりやすい。

### 感動的な青龍寺での灌頂シーン

この映画のクライマックスは、青龍寺の灌頂シーンである。この場面はとても美しく荘厳で感動的である。儀式を終えた空海はそこで、恵果阿闍梨（この俳優はとても良い）より、曼荼羅の説明を受ける。そして空海の考へ方がそのまま曼荼羅思想に重なっていることが確認される。映画をみている観客の心に染み込んだ、空海の生き方、考へ方が、曼荼羅という図像に一致した時、この映画は非常に宗教的な雰囲気漂わせる。

思想を映像で表現することは大変むずかしい。曼荼羅というものをこれだけわかりやすく観客の心に伝え、また空海という人物の魅力と偉大さをきちんと伝えたこの作品は、もしかししたら、（もし映画として映像的にも、人間ドラマとしても上手に仕上がっていれば）実にめずらしい本格的宗教映画となりえたかもしれない。

# 謹 賀 新 年

## 曹洞宗宗務庁

|       |        |
|-------|--------|
| 管 長   | 梅田 信隆  |
| 宗務 総長 | 大竹 明彦  |
| 参 議   | 田邊 哲崖  |
| 参 議   | 岡田 巳成  |
| 教学 部長 | 伊東 盛熙  |
| 財政 部長 | 三宅 心戒  |
| 教化 部長 | 小田原 利仁 |
| 総務 部長 | 吉井 道樹  |
| 出版 部長 | 佐伯 逸雄  |
| 伝道 部長 | 千代川 耕宗 |
| 人事 部長 | 森 和久   |

東京都港区芝一丁目五十二番  
〒105 〇三(三四五四)五四一一

## 浄土真宗本願寺派

|     |       |
|-----|-------|
| 総 長 | 藤音 晃祐 |
| 総 務 | 松村 了昌 |
| 同   | 武野 以徳 |
| 同   | 柱松 青巒 |
| 同   | 木山 星生 |
| 同   | 中岡 順孝 |

京都市下京区堀川通花屋町下ル  
本願寺門前町  
〒600 〇七五(三七)五一八一

## 真宗大谷派

|       |        |
|-------|--------|
| 宗務 総長 | 細川 信元  |
| 参 務   | 上野 諦   |
| 同     | 村上 耕二  |
| 同     | 祖父江 照道 |
| 同     | 調 紀    |
| 同     | 武田 昭龍  |

京都市下京区烏丸通り七条上ル  
常葉町七五四  
〒600 〇七五(三七)九一八一

## 日蓮宗宗務院

|             |       |
|-------------|-------|
| 管 長         | 岩間 日勇 |
| 宗務 総長       | 伊藤 通明 |
| 宗務 副総長      | 佐藤 光春 |
| 綜 合 企 画 部 長 | 岩間 湛正 |
| 庶務 部長       | 二宮 將泰 |
| 財務 部長       | 田中 恵康 |
| 教務 部長       | 石井 隆教 |
| 護 道 部 長     | 石川 浩徳 |
| 現代 宗教 研究所 長 | 石川 教張 |
| 参 与         | 岡部 法順 |
| 参 与         | 白部 健順 |
| 日蓮宗 新聞社 社長  | 菊池 泰瑞 |

東京都大田区池上一丁目三二一五番  
〒146 〇三(三七五)七一八一  
FAX 〇三(三七五)七一八六

# 謹 賀 新 年

總本山金剛峯寺  
高野山真言宗宗務所

座主 竹内崇峯

執行宗務總長 新居祐政

執行總務部長 庄司隆興

執行教學部長 嬉野覺昭

執行財務部長 安芸昌憲

執行山林部長 楠公延

執行法會部長 中西啓寶

同和局長 佐々木兼俊

和歌山県伊都郡高野山一三二一  
〒648-0202 〇七三六(五)二〇二一

高野山東京別院  
主 管 壽山良知

高野山弘法大師奉贊會  
東京事務所長 富家海信

東京都港区高輪三一一五一一八  
〒108 〇三(三四四一)三三三三八

臨濟宗妙心寺派  
宗務本所

管 長 春見文勝

宗務總長 小倉宗徳

總務部長 馬場宗信

教學部長 家永重遠

財務部長 本多道一

花園會 木村潮音

法務部長 澁谷厚保

京都市右京区花園妙心寺町  
〒616 〇七五(四六三)三二二二

天台宗務庁

天台座主 山田恵諦

宗務總長 多紀穎信

參庶務部長 山本堯俊

參社會部長 高松義寛

參教學部長 山田能裕

參財務部長 吉田正賢

總務室長 師田賢説

大津市坂本四丁目六番二号  
〒520-0101 〇七七五(七九)〇〇三二

真言宗智山派宗務庁  
總本山智積院法務所

管 主 長 藤井龍心

寺務總長 石川良泰

總務部長 舛田順明

教化部長 安部隆完

法務部長 佐藤良盛

財務部長 桑澤有康

宗務出張所長 原弘隆  
別院執事

京都市東山区七条下ル  
東瓦町九六四  
〒605 〇七五(五四一)五三六一(二)  
七八九七

# 謹 賀 新 年

真言宗豊山派宗務所

管 長 中川 祐俊

宗務総長 鈴木 常俊

総務部長 鳥居 慎誉

教務部長 小野塚 幾澄

財務部長 杉本 亮一

教化部長 高橋 辰興

総合教化  
研究所  
事務局長 市橋 俊昭

興教大師八百  
五十年御遠忌  
記念事業委員  
会事務局長 鈴木 道雄

東京都文京区大塚五-四〇-一八  
〒112 〇三三(九四五)〇六三九

総本山仁和寺  
真言宗御室派

管門 長跡 松村 祐澄

執行 宗務総長 田中 純應

執行 総務部長 村田 文英

執行 教学部長 福島 智秀

執行 財務部長 堀川 和海

華務長 手嶋 千俊

京都市右京区御室大内三三  
〒616 〇七五(四六一)一一五五  
FAX 〇七五(四六四)四〇七〇

臨済宗東福寺派  
宗務本院

管 長 福島 慶道

宗務総長 岡平 篤道

庶務部長 石原 隆治

教学部長 青木 謙整

法務部長 爾 文弘

財務部長 中山 義豊

京都市東山区本町十五丁目  
〒605 〇七五(五三二)五二〇七

真言宗善通寺派宗務庁  
総本山善通寺

管 長 蓮生 善隆

宗務総長 執行 長 加藤 勝真

香川県善通寺市善通寺町

〒765 〇八七七(六二〇)〇一一一

信 貴 山 真 言 宗

総本山信貴山朝護孫子寺

代表管長 野澤 密厳

管 長 鈴木 鳳永

宗務長 田中 真瑞

庶務部長 鈴木 貴晶

奈良県生駒郡平群町信貴山  
〒636 〇七四五(七二二)二七七

真言宗大覚寺派  
大本山大覚寺

管門 長 井上 紀生

宗務総長 事務 長 岡田 高功

京都市右京区嵯峨大沢町四  
〒616 〇七五(八七二)〇〇七一



# 年 新 賀 謹

## 新潟県仏教会

会 長 中村啓識

副 会 長 田宮黎友

同 今湊良敬

同 春日浩三

同 中島裕幸

同 野口日騰

長岡市上田町二二二五  
徳聖寺内  
〒940 〇二五八(三三)一五八六

## 岡山県仏教会

会 長 清田寂圓

副 会 長 平松智泉

同 松峰隆禪

同 高峰秀清

事務局 長 黒河内寂超

岡山県津山市井口二四六  
長法寺内  
〒708 〇八六八(二二)六四三六

## 静岡県仏教会

新 会 長 石上博貫

新 事 務 局 長 塚本智見

旧 会 長 猪俣顕忠

旧 事 務 局 長 鈴木智竜

静岡県富士郡芝川町大久保二一六  
円惠寺内  
〒419 03 〇五四四(六五)〇一七八

## 愛知県仏教会

会 長 瀬辺淳信

副 会 長 牧忍教

同 江川辰三

同 岩田文有

名古屋市中区新栄一―一―二二  
曹流寺内  
〒460 〇五二(二四)四七二二

## 兵庫県仏教会

会 長 高見寛康

副 会 長 大谷昭世

同 神田祥道

事務局 長 高橋恵俊

神戸市灘区原田通三丁目五―十八  
金剛福寺内  
〒657 〇七八(八六一)四〇四四

## 財団法人

## 埼玉県佛教会

会 長 江連俊則

副 会 長 河野亮永

同 酒井文雄

専 務 理 事 目黒靖淳

浦和市高砂四―一三―一八  
埼玉会館  
〒336 F A X 〇四八(八六一)二一三八  
〇四八(八六一)六六四九

## 岐阜県仏教会

岐阜市西野町三―一―  
本願寺岐阜別院内  
〒500 〇五八二(六六)七八〇三

## 千葉県仏教会

会 長 長瀬日還

理 事 長 山田勝義

千葉県東金市家之子一三八四  
妙宣寺内  
〒283 〇七五(五二)三〇九四

謹 賀 新 年

大阪府仏教会

会 長 森 田 禪 朗

副 会 長 増 田 貞 圓

同 北 村 日 照

同 長 洲 眞

事 務 局 長 井 桁 雄 弘

事 務 局  
大阪府住吉区墨江三丁目十七番八号  
大圓寺内

〒558 〇六(六七)一三二五九  
六(二三)四  
FAX 〇六(六七)三五〇〇四

愛媛県佛教会

会 長 海 頭 廣 文

副 会 長 村 中 戊 信

同 植 村 英 瑞

監 査 吉 川 俊 宏

同 河 野 晃 照

事 務 局 長 水 崎 章 元

会 計 松 本 信 見

役 員 一 同

松山市石手二丁目九一―二一  
地藏院内  
〒790 〇八九九(七七)〇七六六

茨城県仏教会

会 長 中 村 純 崇

事 務 局 一 同

茨城県水戸市元吉田町六八二  
薬王院内  
〒310 〇二九二(四七)六二六六

社団法人  
全日本仏教婦人連盟

会 長 山 本 杉

理 事 長 友 廣 和

専 務 理 事 島 田 喜 久 子

事 務 局 長 林 惠 智 子

東京都豊島区北大塚二丁目一  
大塚プラザビル七F  
〒170 〇三(三九)一〇一―二八九

財団法人

国際仏教興隆協会

名 譽 総 裁 春 見 文 勝

理 事 長 野 呂 幸 進

印 度 山 森 寛 紹

日 本 寺 主 役 員 一 同

東京都目黒区中目黒五―二四―  
五三 祐天寺内  
〒153 〇三(二七)一七六〇八

全日本仏教会副会長  
浄土宗西山禅林寺派  
総本山永観堂禅林寺

法 管 主 長 丹 羽 観 堂

京都市左京区永観堂町四八  
〒606 〇七五(七八)〇〇〇七

妙 見 宗

管 長 野 間 秀 昭

大阪府豊能郡能勢町野間中七―一八  
〒563 01 〇七七(二七)〇〇二八

黄檗宗務本院

宇治市五ヶ庄三番割三四  
〒611 〇七七(四三)三九〇〇

聖 観 音 宗 浅 草 寺

貫 首 壬 生 台 舜  
執 事 長 小 岩 井 貫 承

東京都台東区浅草一―三―一  
〒111 〇三(三八)四一〇一八  
FAX 〇三(三八)四五六九三三

真言宗須磨寺派  
大本山須磨寺

管 長 小 池 義 人

神戸市須磨区須磨寺町四―一―八  
〒604 〇七八(七三)一〇四一六

# 謹 賀 新 年

## 神奈川県仏教会

会長 福永隆昭

副会長 小崎竜雄

同 横山敏明

同 柳下隆侃

同 大井重忠

事務局長 本間孝康

横浜市中区大平町九六

〒221 〇四五(六六一) 〇一六六 西有寺内

## 真言宗豊山派 総本山長谷寺

化主 中川祐俊

事務長 田中量賢

教務執事 佐藤智仙

財務執事 岩田秀孝

総務執事 蓮俊孝

法務執事 林亮弘

執事 田嶋信雄

奈良県桜井市初瀬七三二一  
〒633 〇1 〇七四四(七)七〇〇一

## 大本山 護 國 寺

貫主 小林良弘

執事 岡本永司

院代 上谷良祐

東京都文京区大塚五十四〇一  
〒112 〇三(三九四二) 〇七六四  
〇七六五 八七〇六

## 大雄山最乗寺

山主 余語翠巖

紀綱 阿部顕瑞

副寺 豊島健生

外役寮一同

神奈川県南足柄市大雄町一一五七  
〒250 〇1 〇四六五(七四)三二二二

## 日蓮宗総本山 身延山久遠寺

法主 岩間日勇

総務 藤井教雄

外山務員一同

山梨県身延町身延三五六七  
〒409 25 〇五五六(三二)〇二四

## 真言宗中山寺派

大本山 中山寺

兵庫県宝塚市中山寺二一十一  
〒665 〇七七(八六)六五一七  
FAX 〇七九七(八七)九八七七

## 新義真言宗

管長 広沢純孝

宗務総長 星慶岳

東京都文京区湯島四一六一二  
湯島ハイタウンB一三二一  
〒113 〇三(三八一四)三四六四

## 京都府仏教連合会

理事長 細川信元

京都市下京区烏丸通七条上ル  
〒600 〇七五(三七二)九一八一  
真宗大谷派宗務所内

## 福岡県仏教連合会

会長 黒田英之

北九州市小倉北区三萩野  
二一八一三三 西蓮寺内  
〒802 〇九三(九二二)四五七六

## 真理舎

主管 友松諦道

東京都千代田区外神田三十四一〇  
神田寺内  
〒101 〇三(三二五)八六八三



# 第十一回同和研修会開く

本会主催の第十一回同和研修会が、去る十二月四、五の両日にわたり、臨済宗妙心寺派の花園会館を会場に、本会加盟の各宗派、都道府県仏教会から関係者約百二十名が参加して開催された。今回の研修会は、明年が全国水平社が創立されて七十周年にあたる事を記念し、「全国水平社創立七十周年を迎えて」をテーマに研修が行われた。

四日午後一時から、花園会館仏間で開会式が行われた。斎藤同和推進部長の司会で、まず参加者全員による三帰依文唱和。白川良純理事長の開会の辞につき、蓮池瑞旭同宗連議長が来賓挨拶、会場を提供していただいた妙心寺を代表して、小倉宗徳臨済宗妙心寺派宗務総長から歓迎の挨拶があった後、加藤現崇同和委員会委員長がオリエンテーションを行った。

開会式に引きつづき研修に入り、一九八一年三月にNHKでTV放映されたドキュメンタリー『証言水平社運動』（NHK大阪放送局制作）を鑑賞。参加者はビデオから、全国水平社の歴史と精神を十分に学んだ。

ビデオの上映につづき、部落解放同盟中央執行委員の山中多美男氏が、「部落差別の

らえかたの移りかわりと今後の課題」をテーマに講演。

山中氏は、今日に至ってもなお厳しい部落差別が存在している現実を、①部落差別の變化、②差別のとらえ方の變化と運動の變化、③水平社結成の意義と水平社宣言の思想、④部落差別の現状、⑤今後の課題、⑥宗教者として、の六点にわたって話をすすめた。そして山中氏は最後に、あらゆる宗教の宗祖・開祖は、被差別な人々の現状を憂い、そこから被差別者が救われる道を模索し行動した。「同情」は差別に通じるものである。真の同情とは、なぐさめ、いたわることではなく、喜怒哀楽を共有することである。大衆と共に歩むとは、大衆の喜怒哀楽を我がものとすることである。宗教者は、これからも差別の現実から学ぶ姿勢を持ちつづけていただきたいと、話を結ばれた。

第一日目の分散会は、午後六時三十分から会館内の五会場に分かれて行われた。今回の研修会では、各分散会の定員は十数名前後。それぞれの会場では、参加者同士による活発な意見交換が行われた。

分散会では、参加者の自己紹介から始まり、

講演の内容を基として研修を行った。分散会は午後八時三十分すぎまで行われた後、参加者による懇親会があり、第一日目の日程を終了した。

第二日目は、朝のおつとめ、朝食の後、午前八時から分散会を再開。午前十時から、伊東俊彦同和委員会副委員長の司会で、蓮池同宗連議長が助言者となり、全体会が行われた。最初に、各分散会の討議内容がそれぞれの担当者から報告された。次に助言者がコメントを行った。

最後に、斎藤同和推進部長が閉会の辞を述べ、二日間にわたる全日程を終了した。

## 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (3841) 4965

第十五回「業・旃陀羅問題」に関する研究会

渡辺師（臨済宗妙心寺派）と

相良師（真宗大谷派）が発表



渡辺 憲道師



相良 晴美師

昨年十月二十九日午後一時から、妙心寺花園会館会仏間で、第十五回「業・旃陀羅問題」に関する研究会が開催された。

最初に、「臨済宗妙心寺派の取り組み」をテーマに、同派同和推進本部事務局の吹田良忠師と教員部の渡辺憲道師が発表を行った。吹田師が、妙心寺派の取り組みの概要を紹介した後、渡辺師は部落解放基本法制定要求網の目全国大行進に参加した感想をまじえながら、これまでこの研究会で発表された各宗派の方々の研究成果を踏まえて、業の捉え方についての見解を展開していった。

そして最後に、「宗教者として真の『いのち』の尊厳を自覚すること。そのためには、物事を自己の中で客観点視点に立って照射すること、即ち、自我による自分の利益や保身のためのランク付け（絶対性の呪縛、社会的地位や名譽などの）を廃し、己の宗教的立脚点に照らして、物事や人物、ひいては自分自身のありのままの姿を見つめるという作業。それはそのまま宗教の基本姿勢であるところの我を捨てるということ、そのための具体的方策が必要であると考えられます」と結んだ。休憩の後、「業」ということを考えていく私

の視点」というテーマで、真宗大谷派同和推進本部事務局長の相良晴美師が、要旨次のような発表を行った。

仏教もキリスト教も、その他どんな宗教も別々な説き方はあっても、苦悩する人間ということではどこにも区別はない。人間であるということは、その苦悩を何代も何代も繰り返してきたのである。その苦悩から説き放たれたい意欲こそ「生命の意欲」と言われるものではないか。

差別の問題は人間社会の国家レベルにおいては特に制度の問題がある。インドのカースト制や日本の封建制度などの優位（権力）にあるものの立場から形成された社会、このことが日本の教団形成とも深い関係がある。

大谷派（真宗教団）においても徳川幕藩体制の中でその機能を受容している一方で、人間そのものの罪業の問題と、その制度を受容した（人間の罪業を利用した）仏教界。我々真宗教団、私の属している大谷派教団の二面性（本来の宗教性と差別性）が業の問題と深く関わり混乱している視点を具体的に問題にしていかなければならないと思っている。

私の現在の業問題の視点はそのあたりにおいて考えている。教団においては制度の問題、個人においては解放されたいという本来的要求、「生命の意欲」ということである。

# 常務理事会開催

本会の常務理事会が、去る十二月五日午後一時から、京都グランドホテルで開催された。議長に白川良純理事長、議事録署名人に吉井道樹、藤音晃祐の両師を選んで、議事に入った。

議案第一号「平成四年度歳入歳出予算の大綱について承認を求める件」

白川議長より上程。岡山財務部長が来年度予算案の大綱を詳細に説明した。質疑応答の後、原案通り承認された。

議案第二号「ルンビニー園マヤ堂修復事業

## 成道会盛ん

東京都仏教連合会、東京ブティストクラブが「成道会」を開催した。

東京都仏教連合会が主催する「成道会の集い」が、去る十二月九日午後一時から、東京の九段会館大ホールで開催された。

午後一時からの式典では、東京都仏教連合会会長中村康隆大本山増上寺法主の導師で三婦依文を唱和、大本山増上寺雅樂会が舞楽「蘭陵王」を奏楽した。

つづいて、記念講演として大正大学講師・

の今後の進め方について意見を求める件」  
白川議長より上程。久米原国際文化部長が現在までの詳細な経過報告を行った。  
質疑応答の後、原案賛成の意見表明が行われた。

### 事務総局各部報告

各部長より報告された。川島総務部長が、来年度の会長・副会長を含む本会の役員交代の件、理事・評議員の件について報告。岡山財務部長が、来年度の税制改正の動向について報告。

寺内大吉氏が「心で勝負する」、仏教大学教授・関山和夫氏が「仏教と話芸」のテーマで講演を行った。

最後に、清興は三遊亭圓窓氏とその門下生が仏教にちなんだ落語を披露。参加者は奇知にとんだパフォーマンスとユーモアあふれる落語を堪能していた。

東京ブティストクラブ主催の「釈尊成道会記念チャリティーの夕べ」が、去る十二月十一日、東京・新高輪プリンスホテルで開催された。  
同クラブでは毎年、各地の福祉施設や難民・

被災民救援のためなどにチャリティーを実施しており、成道会を記念する恒例行事となっている。

当夜は約一千名が出席。第一部の日蓮宗の諸僧による記念法要の後、第二部では福引きゲームなどを楽しみ、グループ歌手のデュークエイセスの華麗なるハーモニーに、出席者は魅了されていた。

### 哀悼

細川 祐葆（元全仏常務理事）  
十二月三日、五十六歳で遷化  
前曹洞宗総務部長

## 事務局録事

十二月一日

二日 局内会議

四日 ルンビニー委員会

四日・五日 同和研修会（京都）

五日 常務理事会（京都）

九日 日宗連理事会

東京都仏成道会参列

十一日 東京ブティストクラブ成道会参列

十二日 法律相談室

十三日 同和委員会・研究会

十六日 事務担当者連絡委員会

二十四日 局内会議